

# 令和6年度岡崎市教育研究大会レポート

岡崎市立竜海中学校 太田真喜

1

7B 美術

## 2 研究主題

苦手意識を克服し、粘り強く自分の思いを表現することのできる生徒の育成

— 1年生 ゼンタングルでわたしを表す —

## 3 研究概要

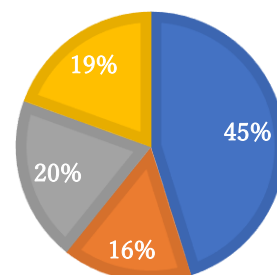
### (1) 主題設定の理由

本校では、昭和38年度より一貫して「わかる学習指導」をめざして授業研究を続けている。「わかるとは何か」「わかるに至るためにどうあるべきか」を問い続けながら、全教科研究を進めてきた。昨年度より、第13次研究「未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成」としてスタートしたが、共通する目標は「魅力あふれる日常の授業」だ。生徒がこれまでの学びとつなげて、本時の学びを価値付け、教科の学習内容の有用性を実感させたい。生徒同士で学び合うとともに、教師が共感的に受け止め、生徒同士をつなげていくクリエイティブチャット(Creative Chat)を取り入れながら、対話的に学び合う授業を展開している。

本校の1年生は、美術を好きな生徒が多く、授業では意欲的に発言したり、仲間とアドバイスしあいながら和気あいあいと楽しく制作したりしている姿が見受けられる。中学校に入学してから約半年後、造形おかざきっ子展では粘土を活用し立体作品を制作した。生徒たちの興味がある題材である食品をテーマにした制作であった。その後の美術科の内容で苦手意識のあるものは何かというアンケートでは、おかざきっ子展の制作直後ということもあり、立体制作には自信を感じる生徒は多かったものの、絵を描くことに苦手意識を感じている生徒が多数見られた。絵画制作というのはデッサンのようにモチーフを見て忠実に描くことだと考えている生徒が多く「ものづくりは楽しいが、絵を描くのは苦手」「頭の中で想像しているような絵が描けない」「自由に描くのは好きだが、デッサンは嫌い」などの意見があった。現在より少しでも絵画制作への苦手意識を減らし、より美術を楽しんでほしいという思いから、目指す生徒像を「苦手意識を克服し、

美術科において  
苦手意識のあるもの

■ 絵画 ■ 立体  
■ 作品鑑賞 ■ 知識(試験)



粘り強く自分の思いを表現することのできる生徒」とした。

## (2)研究の仮設

多種多様な絵画作品を鑑賞し、それらの中から自分の思いや考えを十分に表出することのできるゼンタングルアートを取り入れた学習過程を工夫すれば、苦手意識を克服し、粘り強く自分の思いを表現することのできる生徒を育成することができるであろう。

## (3)研究の手だて

### 【手だて①】ゼンタングルアートを取り入れた単位時間の学習過程の工夫

#### (a)疑問や願い・憧れをもてる導入『導入』

- ・様々な絵画作品を鑑賞し、こうでなければならないという今までの価値観を変化させる。
- ・気軽に自分の思いのままに描くことができるゼンタングルアートを学び、自分にもできるかもしれないという自信につなげる。
- ・ゼンタングルの導入で円、四角形、三角形、線など比較的描き始めやすい形から取り組む。

#### (b)自分の思いや考えを表出できる制作活動『展開』

- ・作品により愛着を抱いたり、アイデアのイメージを湧きやすくするために、自身のイニシャルの形をモチーフにしたり、今の自分が好きなものをイラスト化したりして、ゼンタングルアートに変化させる。



#### (c)学習課題との整合性を図った整理『整理』

- ・中間鑑賞会や完成後の鑑賞会、また毎時間の振り返りカード記入を通して学習課題や自分の目標に合った作品制作となっているか確認する。

### 【手だて②】自分の学びと向き合い、価値付ける「クリエイティブチャット」の設定

「クリエイティブチャット」とは「創造的なおしゃべり」を意味しており、本時の終末段階で、生徒が自分の学びと向き合い、価値付けるために行う発展的な活動のことである。学びの価値付けに正解は存在せず、教師は一人ひとりの学びの価値付けを共感的に受け止め、生徒同士を関連付ける。

	Connect(つなげる)	Create(創造する)
生徒	実社会や実生活の事象や自分自身の既存の知識・技能、生活体験などと、本時の学びをつなげること	「Connect」したことから、自分なりの価値を生み出すこと
教師	生徒の価値付けを共感的に受容するとともに、生徒同士をつなげること	「Connect」することで、生徒にとっての学び意義や価値の実感の深まりをもたらすこと

(d)クリエイティブチャットからの新たな発見『整理』

・授業の終末部分で5分間生徒たちが自由に会話する時間を設ける。

(4)生徒の実態

生徒A・生徒M→図画工作科の頃から、絵を描いたりものづくりをしたりすることが好きな生徒たちである。制作への意欲も高く他の模範となっている。今回の題材を通してより自信をつけてほしいという願いがある。

生徒K→ものづくりは好きで自信はあるが、絵を描くことに苦手意識がある。ただし、どの課題に対しても意欲的に取り組むことができるので、少しでも自信をつけてほしい。

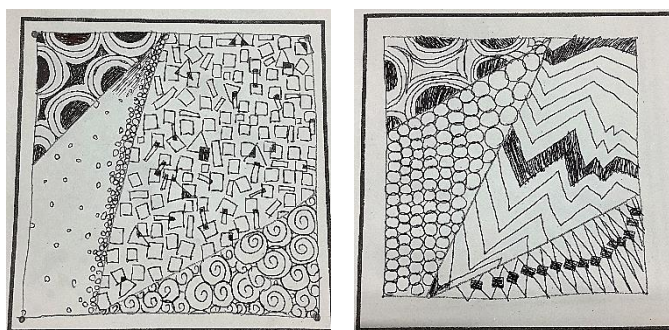
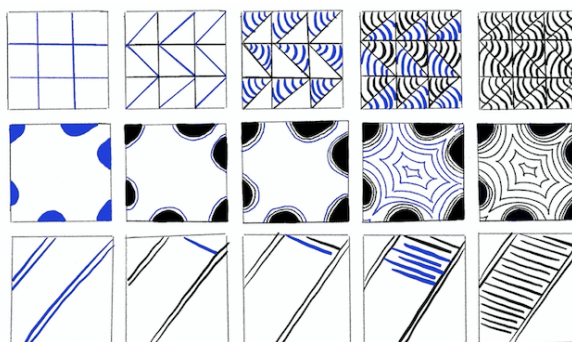
(5)実践 《目標・題材の流れ・評価基準》

目 標		(1)ゼンタングルの基本を理解し、形や色、構成にこだわりながら自分の思いのままに自由楽しく描くことができる。 【知識及び技能】 (2)全体と部分との関係を考えたり、創造的な構成を工夫したりして、自身の今を心豊かに表現する構想を練ることができる。 【思考力, 判断力, 表現力等】 (3)美術の創造活動の喜びを味わい、描くことができるという今後の制作への自信へとつなげようとする。 【学びに向かう力, 人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	絵を描くことが苦手でも、自分の作品に自信がもてる方法はあるのか	○多種多様な制作方法があることを知るために多くの作品を鑑賞する ○ゼンタングルアートの概要について学び、基本の描き方に挑戦する
	2	自分の作品をよりよくするためにはどうしたらよいだろうか	○前時で描いた作品のよさと困っていることをグループで共有したり、アドバイスしあったりしてから、再度描いてみる
展 開	3	今の自分をゼンタングルで表すにはどんなものになるだろうか	○多くのパターンから自分がよいと感じたものを選んだり、今の自分が好きなものをテーマにしたりしてゼンタングルを描いてみる
	4	パターンに陰影をつけるとどのような表現になるだろうか	○前時で選んだパターンに陰影をつけて立体的に表現できるように練習する ○最終的にどのようなゼンタングルアートにするか決定する
	5	自分の思いのままにゼンタングルを描くことができるだろうか	○前時に構想したデザインをもとに、ゼンタングルアートの制作を開始する

	6	自分の思いのままにゼンタングルを描くことができているか	○グループ内で中間鑑賞を行い、友達の作品のよさを感じながら、自分の制作を続ける
	7	自分の思いのままにゼンタングルを描くことができたか	○書き足す部分や陰影を付け加える部分を描き、完成させる
終末	8	気軽に絵を描くことができる方法は、他にもあるだろうか	○完成作品を鑑賞し、今後の制作への展望を明らかにする
評価規準		①ゼンタングルの基本を理解し、形や色、構成にこだわりながら自分の思いのままに自由に楽しく描くことができている。【知識・技能】 ②全体と部分との関係を考え、創造的な構成を工夫したり、自身の今を心豊かに表現したりする構想を練ることができている。【思考・判断・表現】 ③美術の創造活動の喜びを味わい、描くことができるという今後の制作への自信へとつなげようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	

### 導入(1・2時間目)

おかざきっ子展後に実施したアンケートの結果を伝え、老若男女問わず取り組むことのできるアートを紹介した。はじめに細部まで非常にこだわって制作しているゼンタングルアートを紹介した。細かく描かれている作品には抵抗感のある声もみられたが、右図のような描き方を示したところ、自分にもできるかも！という声が増えた。簡単な形を繰り返していくのみで模様を描くことができるという点に興味を抱いた生徒は多かった。また、過去にインドで生活していたという生徒がおり、現地でゼンタングルを経験し、その際の思い出を語ってくれたこともあり、より生徒たちの興味が題材に向いた。その後、初回から自由に描くのではなく、円や四角形、三角形、線など生徒たちが描きやすいであろう形を指定しそれらの変化させながら繰り返していただけと伝え各自取り組んでみた。生徒 K の振り返りでは「自分が思ったままに模様を描くことができよかった。絵心が無くてもできるアートがあって安心した。」と記録してあった。半面、「楽しかったけれど結局色々考えちゃって難しかった。」という生徒も存在した。



左:生徒 M 右:生徒 K の初めて取り組んだゼンタングルアート

### 展開(3～7時間目)

各自のイニシャルに合わせた立体のアルファベットを選択し、文字の内部に今の自分を表すゼンタングルを3種類、好きなゼンタングルを3種類描いた。また着色したい生徒は色鉛筆で着色した。今の自分を表すゼンタングルに関しては、バスケットボール部であればバスケットボールの形からの変化、吹奏楽部であればピアノの鍵盤からの変化などがあつた。好きな数字やアルファベットを変化させる生徒もあり様々なオリジナルの模様が生まれた。あくまでも“繰り返してく”を基本に展開したが、その繰り返



生徒 A の埴輪をモチーフとしたゼンタングル

しに難しさを感じた生徒もいた。またゼンタングルはリラクゼーション効果もあるということで、繰り返し模様を描く過程でリラックスし眠くなる生徒もいた。生徒 A は社会科が好きであり、歴史分野から縄文時代の埴輪をモチーフにデザインを展開していた。A の振り返りでは「自分の好きなものをモチーフに描くと、自分の味が出て面白かった。角度を変えたりすると、全然違うものになったり気づかないうちにキレイなものになったりした。」と、新たな発見にもつながっていた。ただ既成の模様を描くだけでなく、自分自身を表すゼンタングルを取り入れたことでオリジナル作品が多く生まれたように思う。

### 終末(8時間目)

鑑賞会では友達の作品を見て「すごいじゃん!」「これどうやって描いたの?」という声が非常に多かった。生徒によっては“なんとなく”描いてみたものが、友達に称賛され喜んでいる様子がみられた。生徒 K の振り返りからは「友達の作品を見てみると、様々なものがありすごいなあ~と思い見ているだけでも楽しかったです。間違えた!と思ってそれはミスにならないので自信をもって絵を描けたと思います。」と記録してあつた。生徒 M は音楽が好きということもあり、ピアノや音符で自分を表現した。細部までこだわり描く姿は立派であり「前回の作品よりも自分らしいものができて部屋に飾るのが楽しみです。」と記録に残していた。苦手意識のある生徒には少し自信が付き、自信のある生徒はより楽しむことのできた題材であつたかと思う。

クリエイティブチャットは基本的に毎時間行うものとしているが、制作時間や片付けが延びるなどしてなかなか定期的に行うことができなかつた。



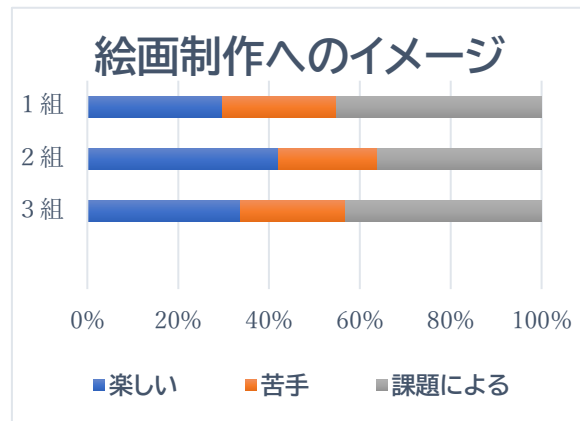
生徒 K の完成作品



生徒 M の完成作品

## (6)研究の成果と反省

今回の題材では、ゼンタングルアートを活用し、「絵画を描くことに抵抗感を減らしつつ、少しでも自信を抱きながら自分らしさを表現する」ということを目指して展開してきた。作品完成後に絵画制作へのイメージを生徒 A・M・K が所属している学級に対して行ってみた。「楽しい・苦手・課題による」の3項目で尋ねてみたが、以前は苦手だと述べ



ていた生徒が、今回の題材を通して少しだけ自信がついた結果となった。苦手意識が0%になるのは難しいと思う。しかし、中学校美術科においては、学校は画塾ではないため、技能力も伸ばしていきたい半面、重要なのは卒業してからの人生において美術に対する印象が好意的であり、生活の一部となることを期待している。今後の題材設定でも、生徒たちの「今」を見極め、何を求めているのか見極めながら行っていくことが非常に必要であると感じている。

また、クリエイティブチャットを有効的に活用できていない現状であることが大きな反省点だ。教科の特性もあるが、授業の終末段階で自由に会話してよいとなると生徒たちが悩むことが多々ある。結局は本時の振り返りとなり、振り返りカードをそのまま読んでいる姿ばかりになる。教師自身も上手に取りまとめることができていないため、経験を増やしていきたい。